

# みんなでき 生きていく

「未年じゃ遅えんだよ」。電話越しに聞こえる声の主は千塚豪(36)さん。奇抜な髪型に、顔を皺だらけにして豪快に笑うのが特徴だ。やりとりの全てに冗談を挟まなければいけないという決まりでもあるのか、こちらが寝れるほどのお調子者だ。その彼が、別人のような静けさで訴えてきた。

震災前は10kgあたり6,000円だったワカメの現在の買取価格は15,000円。漁師にとってはギリギリ利益が確保できる価格だが、それを買い取る加工業者にとっては経営を圧迫するレベルに達している。値上がり幅を小売価格に転嫁すれば売れなくなる。高値が続けば加工業者が廃業に迫られ、安くなれば漁師が食えなくなる。産業構造そのものが破綻しているのだ。一方、日本で流通するワカメのうち国産は約20%に過ぎず、そのうち70%が三陸産だ。さらに、国産ワカメのほとんどが岩手県をはじめとする生産地で消費されて

おり、それ以外のエリアでは国産ワカメを食べたことすらしない日本人も多い。

震災後、被災地に来た知り合いに「三陸で食べたものの中で一番美味しくて驚いたのはワカメだ」と言われたこともあり、豪さんは産地を問わず、まずは国産ワカメを食べてもらおうことが、その市場価値を高めるために不可欠だと考えるようになった。そうすれば加工業者と漁師、どちらも生き残っているポイントが現れるからだ。「これまでは浜ごとにワカメを並べて産地間競争をしていた。だから漁師は敵同士だった。でも、そんなことやってる場合じゃなかった。みんなでワカメのことを伝えて、みんなのワカメを食べさせて欲しい」。出荷に協力してくれる漁師を探すから、と彼が提案してきたのは、東北食べる通信初の産地をまたいだ企画だった。

まだ年明けの空気が1月上旬、北は岩手県大船渡市から南は宮城県黒川市までの6人の漁師たちが、その中間地点となる宮城県気仙沼市に集結した。片道2時間の道のりを飛ばして来た者もいれば、この試みの重要さは、予定を変更して駆けつけた者もいた。ほとんどが互いに初対面だったが、彼の呼びかけ一つに共感して駆けつけたのだ。

## うちが良ければいい

2011年3月9日、三陸沖で発生した地震の影響で10~60cmの津波が発生した。三陸沿岸の広域でワカメの養殖施設は甚大な被害を被ったが、豪さんが漁業を営む吉浜は影響がなかった。「このままいたら値段が倍になる」と嬉々としてワカメの加工場の整備をしていると、3月11日、さらに大きな揺れを感じた。「しめ、これで他のワカメは全部流されて……」とほくそ笑んだの

も東の間、16mを超える大津波は彼自身の船も、ワカメやホタテの養殖筏も全て奪い去ってしまった。そんな自己中心的だった彼が、なぜこれほどまでに「みんなできやりたい」と思うようになったのだろうか。

## “良い”ワカメとは何か

東北食べる通信では、2014年3月号で宮城県南三陸町の千葉拓さん(33)が育てた生若布を特集した。噂を聞きつけた豪さんは、1本2,000円のワカメがあるのかと勘違いして購読した(当時東北食べる通信の購読料は月1,980円だった)。届いたワカメは自分が知っている“良い”ワカメではなかった。疑問に思っ拓さんを訪ねると、彼が出荷していたのはメカブ用のワカメだった。彼はワカメの根元部分にあるメカブを大きくするためにワカメを育てていたので、葉っぱの旬は過ぎていたのだ。しかし、編集部からの「どう

しても都会の消費者に大きく育った九ごとい本のワカメを届けたい」という意図に共感して発送していたのだ。読者は初めて見る巨大なワカメの姿に興奮し、美味しいと大好評だった。「ワカメの色はこう、葉っぱの形はこれ、と今まで俺が知っていたのは加工業者にとって“良い”ワカメだった。消費者にとって“良い”ワカメ、“美味しい”ワカメがどんなものなのか、俺は何も知らなかったに気づいた」。

また、とある飲食店にワカメのしゃぶしゃぶを提案したときも、料理長は大絶賛だったのだが、一向に注文が入らなかった。しかし、お返しとして提供してみるとお代わりする人も現れた。岩手・宮城県外の人にとってワカメは“所詮”ワカメであり、期待値が非常に低いということを知らされた。

## 全国ワカメ行脚

さらに、三陸の漁師や加工業者などが集まって、全国のワカメを食べ比べたときのこと。三陸のワカメが日本一だと息巻いていた参加者の実に半分が三陸産を出てることができなかった。昔から吉浜の漁師の間ではなぜか評価が低かった。徳島県鳴門市産のワカメの品質が高いにも関わらず。「宮城より岩手のワカメが良い、西のワカメは悪いと岩手では言っていたけど、思い込みではなかった」。それから、全国のワカメを自分の目で見に行くようになる。青森県深浦町・岩手県重茂町、愛知県南知多町、大分県中津市など……。そして今豪さんは、忙しい仕事の合間を縫って全国のワカメ漁師を訪ねている。

1  
月  
9  
日  
-1°C



## 【岩手県大船渡市吉浜】

文=成野 沙紀、高橋 博之 写真=玉利 康彦  
※写真は宮城県気仙沼市岩井崎での集合写真です

特集  
生若布